かずさの博物誌

ハクセキレイ

～冬、街路樹にねぐら～

文・写真／成田篤彦

2017.2.20

「かわいいな」とつい目を細めます。

毎朝、新聞をとりにいくと、二羽のハクセキレイが、私を待っているように舗装道路にいます。

つぶらな眼でこちらを見つめ、長い尾を上下に振りながら、道路をちょこちょこと歩いています。

人が来てもすぐには飛び立ちません。

「ハクセキレイもすっかり、市街地の鳥になった」と感じます。

実は、この小鳥は約四十年前には冬でも市街地ではあまり見かけませんでした。

ハクセキレイは、一九五〇年代以前は北海道や本州北部で繁殖していました。

千葉県では繁殖しておらず、秋に北方から海岸や水辺に訪れる冬の鳥でした。ところが、理由ははっきりしませんが、一九八〇年代になると繁殖するようになったのです。

今では、スズメと同じように一年中、市街地でも見られるようになりました。

冬のハクセキレイは、昼間は公園や河原や畑、水田やハス田などで、昆虫などのえさを捕っています。夜は市街地の街路樹などで、集団で眠ります。

例えば、駅のロータリーでは薄暗くなると四方からハクセキレイが近くのビルの屋根などに集まります。真っ暗になると意を決するかのように一本の街路樹に次から次へと飛び込んでいき、眠りにつきます。約五〇〇羽が集まった時もあります。その時、駐車している車に糞を落として人々に迷惑をかけたりします。

また、開発されたばかりの商店街の街路樹でも集団で眠りについています。

市街地にねぐらをつくるのはチョウゲンボウ（タカ類）などの天敵があまり来ないからと考えられています。

ハクセキレイは初夏になるとなわばりをつくり、繁殖に入ります。

彼らは自然環境では河原の石のあいだなどに、市街地ではアパートの鉄製の階段や駐車場の鉄骨や換気扇などのすきまに枯草、枯れ枝をつかって荒い皿状の巣を作ります。

かつて、交差点にある商店の換気扇に巣を作っていて、オスがそばのイチョウ街路樹の頂でさえずっていました。また、近くの水田でケラやイモムシ、水辺で水生昆虫のカゲロウを何匹もくちばしにくわえているのが観察されました。

ハクセキレイは天敵が少ない、安全な市街地に巣やねぐらをかまえ、近郊の田畑などにえさを捕りに行くという、市街地と郊外を往復する生活をして、平地に分布を拡大していった小鳥だと感じます。

これも人々が身近にすむ小鳥の生活に寛容になったからかもしれませんね。

▲ハクセキレイ　街路樹のねぐら
＝2008年１月28日　木更津市

▲ハクセキレイのメス　ケラを捕る
＝2007年６月11日　木更津市

▲ハクセキレイのメス　歩道でアリを捕る
＝2011年７月２日　木更津市

▲ハクセキレイのオス　巣のそばのイチョウの街路樹でさえずる
＝2011年７月２日　木更津市

▲ハクセキレイ　冬に水浴びをする
＝2015年２月19日　木更津市

memo

ハクセキレイ

スズメ目 セキレイ科

全長約二十一センチ。ユーラシア大陸～アフリカ大陸にかけて分布。低地の水辺や市街地に生息する。繁殖地は五～七月。

◎写真・文章の無断転載を禁じます。